



ジカ熱対策は、防虫対策！！

ヤブカ族の蚊（ヒトスジシマカ）によって感染する病気です。

ジカウイルスに感染した蚊に刺されてヒトに感染します。輸血や性行為によって感染する場合があります。

症状 一般に症状は軽い発熱、発疹、結膜炎、関節痛、頭痛など1週間程度でよくなり、感染しても症状が出ないヒトが80%といわれています。但し、流行地域では、ギラン・バレー症候群、その他の神経症候群や自己免疫症候群の患者が増加し明らかな関連は不明ですが、注意が必要です。また、妊婦さんが感染すると小頭症の子供が生まれることが確認されています。

潜伏期間 2日～12日

治療方法 痛みや熱に対して解熱鎮痛剤を投与し、脱水症状があれば輸液を実施する。ジカウイルスに対する特効薬はありません。



ヒトスジシマカ

ギラン・バレー症候群

運動や感覚をつかさどる末梢神経が障害される病気で、手足に力が入らないという軽度のものから、全身の筋肉が動かず、寝たきりになったり、呼吸も出来ず人工呼吸器が必要となる重度のものまであります。発症してから1ヶ月以内に症状のピークがあり、その後は徐々に回復し6～12ヶ月で多くの患者はほぼ完全に回復します。

病気が起こる原因は、はっきりしていませんが、ウイルス感染や細菌感染などがきっかけとなって、本来は外敵から守るためにある免疫システムが異常になり、自己の末梢神経を障害してしまう「自己免疫疾患」であると考えられています。

小頭症

ジカウイルスに感染した母親から胎児に感染すると、脳の発育が障害され本質的な発育不全を起こします。その結果、生まれてきた子供は、運動機能低下や知能低下を認めます。

現在の流行地域は、中南米、タイ、フィリピン、ベトナムなどです。今後、蚊の生息に適する地域へ流行拡大する恐れがあるので注意が必要です。

予防策は防虫！！

蚊に刺されないようにする

- 肌の露出を避ける（長袖のシャツ、ズボンを着る）
- 防虫スプレーの使用（ディート DEET などの昆虫忌避剤が含まれているもの）
- 流行地域には行かない（妊娠している人、可能性がある人は特に注意が必要）
- 蚊の発生源を作らない！！
- 蚊は小さな水溜りを好み約 300 個の卵を産み付け、幼虫(ボウフラ)から 2 週間位で羽化します



ジカ熱の流行地域から帰国、入国後は念のため14日間程度蚊に刺されないよう虫除け剤を使用するなど注意してください。

また、発熱等の症状があり医療機関を受診する場合、流行地域に滞在していた事を医師に伝えてください。

以下のホームページよりジカ熱に関する情報を入手できます。

厚生労働省（ジカ熱について）：<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html>

国立感染症研究所：<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/6224-zika-fever-info.html>

政府広告オンラインジカウイルス感染症予防

<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201605/2.html>

不安なことやわからないことがあれば保健室へお電話にてお問い合わせください。

桃山学院大学 保健室

